

ねんど
2010年度

だい かいしゃかいどうわきょういくこうざ やく めいさんか
第2回社会同和教育講座に約40名参加！

1. 日 時 2011年1月29日(土) 13:30~
2. 会場 てんぱくだい しゅうかいじょ
天白第2集会所
3. 講師 じんけんきょういく けいはつけんきょうかい かわむら さん
みえ人権教育・啓発研究会 川極 悟 さん

☆ かわむら さんのプロフィール ☆

どうわもんたい で あ おおやまだむらしゃかいどうわきょういくしどういん しゅうにん へ
1992年に同和問題と出会う。1997年の大山田村社会同和教育指導員への就任を経て

おおやまだむらしゃかい じんけん どうわたいさくしつ さんむ けんざい い が し おおやまだしよ
2004年に大山田村職員となり、人権・同和对策室に勤務する。現在は伊賀市大山田支所

じゅうみんあくしかしんけんどうわがかりしにん こうむ いがしどうこうけいかく いがしきょうざいせいかいこうたいこう
住民福祉課人権同和係主任。また公務のほか、伊賀市総合計画や伊賀市行財政改革大綱

さくていいいん みえけんじんけんたいがくこうざこうしだんこうし れんにん
の策定委員、三重県人権大学講座講師・同講師などを歴任する。

様子・内容などはこちら→

「一本の電話がすべてを変えた」

こういわれると、その一本の電話とは誰からのどんな内容だったのかと、どうしても知りたくなりました。それまでの川極さんの「すべて」を変えたとなとなおさらです。「勉強会(差別事件に対する事実確認・糾弾学習会)に出て来やへんか」。電話の主は中学校時代の恩師、松村智広さん。川極さんが25歳のことです。

今回、伊賀市(旧阿山郡大山田村)からお越しいただいた川極さんのお話は、大きく分けるとその時を境に前と後に分かれます。「寝た子を起こすな」が生きるすべだったムラに生まれ、ことあるごとに差別・選別されたという小中学校時代の記憶は決して忘れることができません。「悟、さわるな(おかしいと思って口に出すな)」と大人から言われたこと。自分が学校で叱られると、なぜかムラから通っているみんなが職員室に呼び出されていっしょに注意を受けたこと。



高校生となっても、自分の置かれている状況がわからない、立場がわからない。したがってどう闘っていいかわからなかった。高2 のとき、ケンカ相手から「お前も部落やっとな」とみんなの前で明らかにされたことで、はじめて自分が被差別部落の出身であることを知らされます。「オレ、部落やけどかまへんか」「それがどうしたん?」。当時付き合っていた彼女の一言でモヤモヤが吹っ飛んだのも束の間、今度は彼女に彼女の周りから「部落差別」が襲いかかりました。結婚を断念せざるを得ませんでした。「やっぱりな」とつぶやいた母親の一言が忘れられません。

差別されっぱなしでたまるか!

まつむらせんせい からの 電話はそれから 1年後のことでした。気持ちもずさんでいた川極さんを何とか引っ張り出そうとしたのでしよう。ムラの青年たちとの輪を広げるうちに、村政の矛盾点も同和对策事業の問題点も見えてきました。「村が差別をなくす気持ちがないのにいこう工事(同和对策事業)しても何にもならない」。やがて「寝た子を起こすな」に縛られていたムラの意識が変わり始めたと言います。

「学んだことは住んでいるところに、家庭に、職場に返してなんぼや」「自分だけでおなかいっぱいになっていても何にもならない」。そう指摘された言葉は、講座に参加した私たち一人ひとりに向けられています。「私みたいな人間にならないでください」そして「私みたいな人間をつくらなでください」。川極さん、43年間の教訓からたくさんのことを学ぶことができました。さあ、次は私たちの出番です。

